

奨励賞



安原



日野

設計担当者

安原 幹、日野雅司
栃澤麻利
佐藤 淳

SALHAUS
東京建築士会

佐藤構造設計事務所、東京建築士会

構造 | 分署棟…木造
訓練塔…鉄筋コンクリート
組積造
資機材庫…鉄筋コンクリート
組積造一部木造

階数 | 地上2階

敷地面積 | 4,957.57㎡

建築面積 | 732.82㎡

延べ面積 | 1,029.74㎡

竣工 | 平成30年3月14日

消防署／岩手県気仙郡住田町

大船渡消防署住田分署



1



2

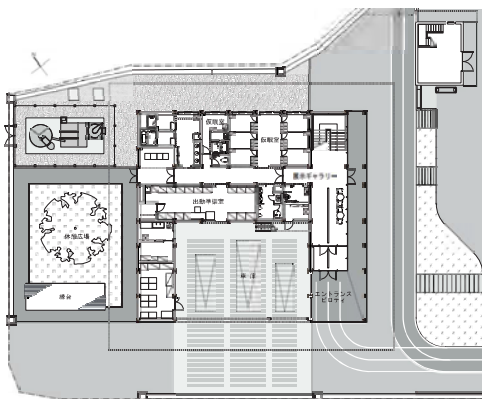


3

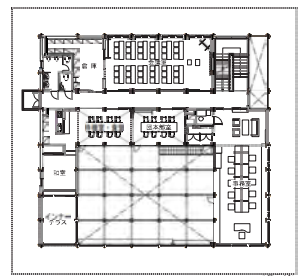


4

- 1 南東側外観
- 2 町役場と消防分署で囲まれた町民広場。底下が人々の居場所となる
- 3 階段。段板はCLT (t150mm)
- 4 車庫内部



1階平面図



2階平面図

選評

住田町は町の総面積の90%が森林で、林業や木材加工業の振興を目的に「木によるまちづくり」とも言えるさまざまな試みを行っており、木材という地域資源を活用した建築、木質バイオマスによるエネルギー供給もその一貫である。

この建築は既存の役場庁舎前の芝生広場に対して消防車車庫の大開口と約3m跳ねだした底をもって大きく構えた姿が力強く、地域の安全を守る役割を果たす建築としてのシンボ

ル性を表現している。一方で開放的な車庫、駐車場とそれを巡るランニングトラック側に開いた玄関ホール・情報ギャラリー前のピロティ空間、縁台を持つ休憩広場などによってこの建築は地域に対して開かれたものとなっている。

この力強さと開放性は独特の木造架構形式によるものである。300mm角の柱に360mm×120mmの梁を貫通させ、込栓と楔で固定する「貫式ラーメン構造」と呼ぶ日本の伝統的構

法を応用した架構は、柱スパンや空間の大きさに応じて梁を2段、3段、4段と重ね、建物全体で十分な数の接合部を確保することで木造フレームを成立させており、それが内外ともに意匠的な特徴となっている。

地域の木材を最大限活用してできたこの建築が、同じく木造の役場庁舎とともに地域の風景、新しい公共空間として定着することを願ってやまない。
(箴島 亮)